

薬袋にある税金のありがとう

函館白百合学園中学校3年 中谷 瑠唯

私の母は薬剤師です。白衣を着て、患者さんの名前を何度も確認しながらひとつひとつ丁寧に薬を渡しています。母の働く姿はとてがかっこいいけれど、忙しくて帰りが遅くなる日も多い毎日です。そんなある日、ふと私は母に聞いてみました。「薬って高そうだけど、どうして私は無料なの？」母は優しく答えてくれました。「医療費って、実はすごく高いんだよ。でもね、日本には健康保険制度があるから、自己負担が3割で済むの。そして、あなたの住んでいる市では、市が税金を使ってその分を負担してくれているから、子どもたちは無料になっているのよ。これも、みんなが納めてくれている税金のおかげなんだよ。」私は驚きました。いつも何気なく無料でもらっている薬の裏で、「税金」という見えない力が働いていたなんて、思ってもみませんでした。

母はよく言います。「お薬を渡すのは仕事だけど、その人の心と体が少しでも軽くなってくれたらいいなって思ってるの。」そんな母の仕事も、国の制度や税金があるから成り立っているのだと知り、私は税金に対する気持ちが変わりました。前までは、税金を「ただ払わされているお金」だと思っていました。でも今は、「人のぬくもり」のように感じられるようになりました。

病気やけがは、誰にでも起こることです。もし税金がなかったら、薬をもらいたくてももらえない人、病院に行きたくても行けない人が増えてしまうかもしれません。そう思うと、税金は誰か一人を助けるためのものではなく、「みんなを支え合う仕組み」なのだと気づきました。

病院だけでなく、小学校や中学校の学費、私達が毎日使っている道路の整備など、私達の生活のさまざまな場面で税金は使われています。目には見えないけれど、確かに私達のすぐそばにある。それが、税金の力なのだと思います。だから私は、日々、所得税を納めてくださっている働く人々や、消費税を払って物を買ってくれている人々に、感謝の気持ちを込めて学校生活を送りたいと思います。

そして、薬剤師である母の背中を見て育ちながら、将来は私も誰かの健康や命を支えられる大人になりたいです。そして、きちんと税金を納め、見えないところで誰かを支えられる大人になりたいです。

私は気がつきました。「ありがとう」は、薬をくれる母にも、支えてくれる税金にも伝えたい言葉なんだと。